

向聴数の早わかり

プレゼン提供：よしくん（松井義樹） / 資料作成：うっちゃん（内田 誠）

2014年7月13日

1 向聴数とは

向聴数とは、「聴牌に必要な、有効牌の種類の数」のことです。あと2枚で聴牌ならば2向聴、あと1枚ならば1向聴……という具合です。便宜上の表記ですが、0向聴は……聴牌、-1向聴は和了りですね。

2 和了り形の種類

麻雀の和了り形は全部で3種類あります。

1. 国士無双形 ( など)
2. 七対子形 ( など)
3. メンツ形 ( など)

それぞれで向聴数の求め方が異なるため、正確には1つの牌姿に対して最大3種類の向聴数があるはず……ですが、普通はこの3種類の向聴数のうち、最小のものを(その牌姿に対する)向聴数と呼びます。

3 向聴数の求め方

それぞれの和了り形について、向聴数の求め方をまとめておきましょう。有効牌を1つ1つ加えながら、何枚の有効牌で聴牌になるかを計算する「加算法」というやり方がありますが、ここでは、和了り形の最大向聴数から向聴数を下げる要素の数を引いて求める「減算法」のやり方を説明します。

国士無双形

13 - 幺九牌の種類の数 - 幺九牌の対子の有無 (最大1)

- 最大向聴数は、タンヤオのときで13種類の幺九牌を持ってくれば聴牌なので13。
- 手牌にない、新たな幺九牌を1枚引くと向聴数が1つ下がります。
- 和了りには雀頭が必要なため、幺九牌の対子が1組できればやはり向聴数は1つ下がります(2組以上できては向聴数は下がりにません。国士無双に必要な対子は1つのみなので)。

例  → 11種類の幺九牌と幺九牌の対子があるので $13 - 11 - 1 = 1$ 向聴

七対子形

6 - 異なる対子の数

- 最大向聴数は、対子が全くないときで、異なる対子が6組できれば聴牌なので6。
- 異なる対子ができるとう聴数が1下がるので、異なる対子の数を引けば向聴数です。

例  → 対子4組なので、 $6 - 4 = 2$ 向聴

メンツ形

$$8 - 1 \times \text{塔子の数} - 2 \times \text{面子の数} - \text{面子} \cdot \text{塔子以外の対子の有無 (最大 1)}$$

計算できる面子・塔子は4組まで

- 最大向聴数は、1つの孤立牌に2枚の有効牌を引いて面子をつくることを考えると、4面子作ればいいので $2 \times 4 = 8$ 。
- 塔子(あと1枚で面子になる2枚組。  (辺塔),  (嵌塔),  (両塔),  (対子)) が1つできると向聴数が1下がるので、塔子1組に対して1を引きます。
- 塔子が面子になっても向聴数が1下がるので、面子1組に対して2を引きます。
- ただし、和了り形に面子は最大で4個までなので、面子と塔子は合わせて4組までしか計算できません(5組以上は無視。いわゆる面子オーバー(正式には塔子オーバー?)の状態)。
- 和了り形には雀頭が必要なので、計算した面子・塔子以外に対子があれば(つまり、オーバーしている塔子のうち、1組でも対子があれば)、1を引きます。
- 実際には.....8から面子があれば2、塔子があれば1を(4回まで)引き、オーバーした塔子に対子があればさらに1を引く.....と簡単に計算できます。

例1  → $8 - 1 \times 3 - 2 \times 1 = 3$ 向聴

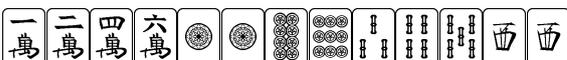
(実際には、 $8 - 2(\text{面子}) - 1(\text{塔子}) - 1(\text{塔子}) - 1(\text{対子}) = 3$ (は5組目なので無視)と計算した方が早い。)

例2  → $8 - 1 \times 3 - 2 \times 1 - 1 = 2$ 向聴

(実際には $8 - 2(\text{面子}) - 1(\text{塔子}) - 1(\text{塔子}) - 1(\text{対子}) - 1$ (5組目だけど、は対子なので1を引く) = 2と計算した方が早い。)

練習問題

次の手牌は何向聴でしょうか。最後は意地悪ですが.....。

1. 

2. 

3. 